

教材活用例(3) 「今を一生懸命～日本女子体操を支えた池田敬子さん～」

〔小学校高学年 主題：夢を追い求めて 内容項目：1の(2)〕



(1) 開発資料の実際

ア 素材の説明

(ア) 素材の概要

〈素材—池田敬子さん—について〉

敬子さんは、三原市の出身で、1954年のローマ世界体操選手権の平均台で金メダルをとり、1964年の東京オリンピックでは、女子団体3位、日本史上初の女子体操で銅メダルを獲得した。

体操ニッポンのパイオニアであり、黄金時代をリードしてきた。



昭和 8年 (1933年)	三原市鷺浦町に生まれる。
昭和23年	三原高校に入学する。
昭和26年	日本体育大学に入学する。
昭和29年	ローマ世界選手権の平均台で金メダルをとる。
昭和36年	長男を出産する。
昭和38年	次男を出産する。
昭和39年	東京オリンピックで団体銅メダルをとる。
昭和53年	日本体育大学教授に就任する。
平成14年 (2002年)	国際体操殿堂入りをする。
平成15年	三原市名誉市民に選ばれる。
平成19年	広島市に体操専用の体育館を建設する。

池田敬子さんの経歴

(イ) 4コマ絵

池田敬子さんの著書「人生、逆立ち・宙返り」や本人へのインタビュー、史実に基づいて素材を整理し、人間的魅力が伝わるエピソードを盛り込みながらまとめた。池田敬子さんの生き方や考え方が表れているオリンピックの場面を中心場面とし、起承転結を設定した。

	起	承	転	結
場面のイメージ絵				
絵の説明	小さいころから野山をかけまわり元気いっぱいだった敬子さんは、高校時代に体操と出会う。過酷な環境の中で、大好きな体操に夢中の毎日が始まった。	厳しい合宿生活が始まる。メダルを期待されているプレッシャー。仲間どうしの言い争い。そんな中、全身あざだらけになながらも、オリンピックでメダルをとるという夢に向かって突き進んでいく。	東京オリンピックの開幕。女子体操団体戦が始まる。しかし、前半で点が伸びず、メダルが絶望的な状況に。落胆し涙を流すメンバーの中で、一人涙をこらえこぶしをにぎりしめる敬子さん。	「メダルはとれる。いいや、とる。」敬子さんは、ぐっと顔をあげ、平均台の演技へ。結果は、銅メダル。胸元で輝くずっしり重い銅メダルを見つめる敬子さん。

イ 資料の解説

【作成の要点】

高学年は、児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだりする。同時に、自信がもてなかったり、夢と現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気を持って取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある。その際、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えられるようにすることが大切である。

また、高学年の「心のノート」の関連ページ（PP.18-19）には、キーワードとして「目標に向かう道にはいろいろなことがある」とあり、具体的には「あきらめの坂」「ふんばりの滝」「もう一步の岩」などの人間的な弱さや、挫折感を克服しようとする強さが分かりやすく絵とともに示されている。

そこで、資料作成にあたっては、厳しい合宿生活の中での葛藤場面と、夢であったオリンピックの舞台で絶望的な状況になったときの葛藤場面を設定し、敬子さんの弱さや強さの両面を考える中で、目標に向かいくじけないでやりぬこうとする心情をねらいとして設定した。

現代の児童は、夢をもっていても、現実とのギャップに負け、すぐにあきらめてしまおうとする傾向にある。「資料に登場する人物は、もともと資質があったからできたのだ。」とか、「自分には到底できないこと。」といったように、特別な人だからできたことだと思いがち。しかし、目標を達成した人の陰にはつねに努力があること、何度も挫折しながらもあきらめなかったことなどに気付かせ、着実に前進していこうとする心情を養いたいと考える。

体操競技自体は、児童に馴染みがないと予想される。そこで、大会での平均台の演技の様子を映像で見せるとともに、平均台の実際の高さや幅を視覚的に見せる工夫をすることでイメージをもたせるようにした。体育で、事前に学校用の平均台を歩いたりターンさせたりしておくとともに効果的である。



【心に響くちょっといいはなし】

映画監督の新藤兼人さんとともに、平成14年、三原市名誉市民に選ばれている。広島市に、私財を投げうって西日本初の体操専門の体育館を設立しているが、そこは体操競技者だけでなく、健康保持のための体操の普及にも役立っている。池田敬子さんは競技者であり、指導者、教育者であったが、次の言葉に池田さんの教育者としての信念が窺える。

—「スポーツが勉強を支え、勉強がスポーツを支える」と信じる—

スポーツに打ち込むと何度も壁に出くわすでしょ。そこをどう乗り切るか。頭を使って、あの手この手を考える。賢くなる。特に体操は自由度の高いスポーツ。技を考え始めるときりが無い。どんどん考えて、習得して、また考える。身体能力だけでなく、考える力も伸ばすスポーツの一面にも注目してほしい。

三原には、体操が盛んになる土壌がある。やっさ踊りだ。全身を激しく動かして、みんなを陽気にさせる自慢の踊りを夏の祭りだけ登場させるのはもったいない。「やっさクラブ」をつくりたいと考えている。年中「やっさやっさ」と体を動かす。体操の基本を学びながら、地域活性化の担い手も創出できると思う。

ウ 資料全文

「今を一生懸命」

～日本女子体操を支えた池田敬子さん～

平成 21 (2009) 年 10 月 16 日,

「やりました！鶴見選手。世界体操選手権の女子個人総合において 43 年ぶりの銅メダルをかくとくしました！」

このニュースを誰よりも喜び、満面の笑みを浮かべながら見ていた人がいる。池田敬子さん。彼女こそが、43 年前のオリンピック銅メダリストであり、今なお日本の体操競技の発展のために力をつくしている人なのである。

敬さんは広島県三原市佐木島^{さきしま}生まれ。小さいころから野山をかけまわる元気いっぱいの子だった。体そう競技との出会いは高校時代。とくいな鉄ぼうで思うぞんぶん、くるくるくと回っている姿をたまたま体そう部の先生が見つけた。すぐに体育館に連れて行かれ、目にしたのは、マットや平均台の上で全身を使ってとんだりはねたりしている体そう部員たちの姿。(なんだ、これは？・・・)しばらく、ぼかんと口を開けて見つめていたが、引きよせられるように平きん台に歩み寄り、初めてふれたそのときから、体そうに夢中の毎日が始まったのだ。中でもとくいだったのは平きん台。はば 10 cm、長さ 5 m、高さ 1 m20 cm。バランスをくずしてほんの数ミリ身体がかたむいただけでも、落下してしまう。たえず落下のきょうふがつきまとう種目だ。しかし、敬さんは、バレエシューズをはいたり、げたで歩いてみたり、ついにはげたをはいたまま平きん台の上でなわとびをしたりと様々な練習を考え出した。ひとつ技ができるようになると、また新しい技にちょう戦していく。明日の練習が待ち切れなかった。体そうづけの毎日を過ごし、体そうのできる大学へ進んだ。



しかし、大学時代の練習はほとんど屋外。真冬の朝は、地面に 10 センチもあるしも柱が立っていても、す手にはだしで土の上での練習だった。手や足はしもやけだらけで血がにじむ。でも、練習を休んだ日はない。雪がつもれば「ラッキー！」と鉄ぼうの下にかき集めてマットのかわりにした。敬さんにとってそんなかんきょうはへっちゃらだったのだ。

大学 2 年生の時のヘルシンキオリンピックでは、女子の体そうチームが参加できない中、男子体そうチームが多くメダルをかくとくした。日本でテレビちゅうけいを食い入るように見つめていた敬さんは (いつかきっと私たちが・・・) と何度も何度もつぶやいていた。



そして大学4年生になると、初出場の世界体そ選手権の平きん台で金メダルにかがやくなど、すばらしい成せきをおさめていった。敬子さんをリーダーとして、日本の女子体そはかくじつに世界のぶたいに立ち始めていったのだ。しかしまだ、オリンピックのぶたいでのメダルはな
いまま数年が過ぎていた。結こんし子どもを育てながら選手としてかつやくする中、東京オリンピックまで、あと2年とせまり、初のメダルをめざしてきびしい合宿生活が始

まった。二人のおさない子どもは近くの旅館にあずけ、朝は5時すぎに起きると合宿所から坂をかけおりに旅館に行き、おむつをせんたくする。当時はせんたくきなどなく、たらいでの手洗いだ。皮がむけている手のひらに、冷たい水がしみる。せんたくが終わるとすぐにまた合宿所にもどる。まだねているメンバーをおこして、6時から朝練習のはじまり。げんかいぎりぎりまであせを流す練習が、来る日も来る日も続く。全身あざだらけになっても、メンバーの思いはみな同じ。しかし、メダルという大きなプレッシャーの中、言い合いのけんかになることもめずらしくはなかった。

そんな冬のある夜。体はつかれはてていながら、なかなかねむれずにいた。(本当にメダルがとれるのかな・・・・・・) 敬子さんは、冷たい冬の夜空にかがやく星を、一人ながめた。そんな時はいつも(結果を考えないこと。今を一生けん命やるだけ。)と、自分自身に言い聞かせるのだった。そんな合宿生活が、2年続いた。

昭和39(1964)年10月10日。さわやかな秋晴れのもと東京オリンピックが開幕した。いよいよ女子体そ団体戦。きょうごうチームが競う中、メダルをとるためには前半戦のきてい演技で3位以内に入り、そのままにげきる作戦だった。ところが・・・・。他国のチームが高得点を出す中、日本は小さなミスが重なって点がのびない。メンバー全員、そしてかん客も、かたずをのみ、とく点板を見る。

「ああっ・・・・。」日本のおうえんでうめつくされた会場は、落たんのため息とともに、しんと静まりかえった。メダルが絶望的な状況になってしまったのだ。

「もう、だめだ。後半どんなにがんばっても追いつけるかどうか・・・・。」

「あんなに期待されていたのに・・・・。」

メンバー全員の中から、涙が流れた。一人涙をこらえ、こぶしをにぎりしめたままだまっとうつむく敬子さん・・・・。

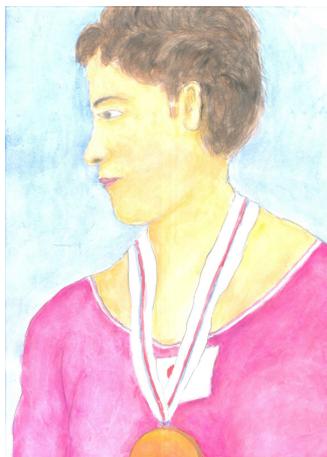


しかし、大きく息をすい込むと、ぐっと顔をあげた。

「まだ、終わっていない。メダルはとれる。いいや。とる！」

いよいよ後半の勝負の演技「平きん台」。仲間の技が決まるたびに「エイヤッ！」と気合いのかけ声をかける。そして、最終演技者、敬子さん。ゆっくりと平きん台の前に立つ。ここまでの自分を支えてきたものが、腹にどっしりおさまっている。「大丈夫。それだけのことをしてきたじゃないか。今を一生けん命やるだけ。」不思議なほどに心が落ち着いていくのが分かった。まるでこきょうのおだやかな瀬戸内海の海面のように・・・・。もう一度ゆっくり息をすい込む。「よしっ！」大きく一步をふみ出すと、ダイナミックなジャンプとターン。ぴたりと決まった。「エイヤッ！」仲間の声がひびく。笑

顔になったのが自分でもわかった。そしてフィニッシュは、この日のために温めてきた大技「片足前方宙返り」。マットにすいこまれるように着地が決まったしゅん間、「うおー！」会場から大かん声があがった。



結果は女子体そう団体3位、オリンピック初のメダルかくとく。5人のチームメートとともに、表しょう台の上立つ敬子さん。胸元にはずしりと重い銅メダルが美しいかがやきをはなっていた。

大かんしゅうのかん声とはく手がひびく中、敬さんはあふれてくる思いを胸にじっとメダルを見つめた。

引退後も体そう競技はってんのために全力で力をつくし続けている敬子さん。今もこうはいの育成に一生けん命の毎日だ。

【参考文献】

池田敬子 「人生、逆立ち・宙返り」(2009) 小学館

エ 授業展開例 ー学習指導案(略案)ー

壁にぶつかった時の人間的な弱さと強さについて考える展開
 ～ 視聴覚機器の活用により興味をもたせる工夫を取り入れた指導 ～

(ア) 主題名 夢を追い求めて 1-(2)

(イ) ねらい オリンピックでのメダルをつかむ寸前に絶望的な状況になった時の敬子さんの心情を考えることを通して、夢に向かい強い意志をもってくじけないでやりぬこうとする心情を育てる。

(ウ) 資料名 「今を一生けん命」

(エ) 学習指導過程

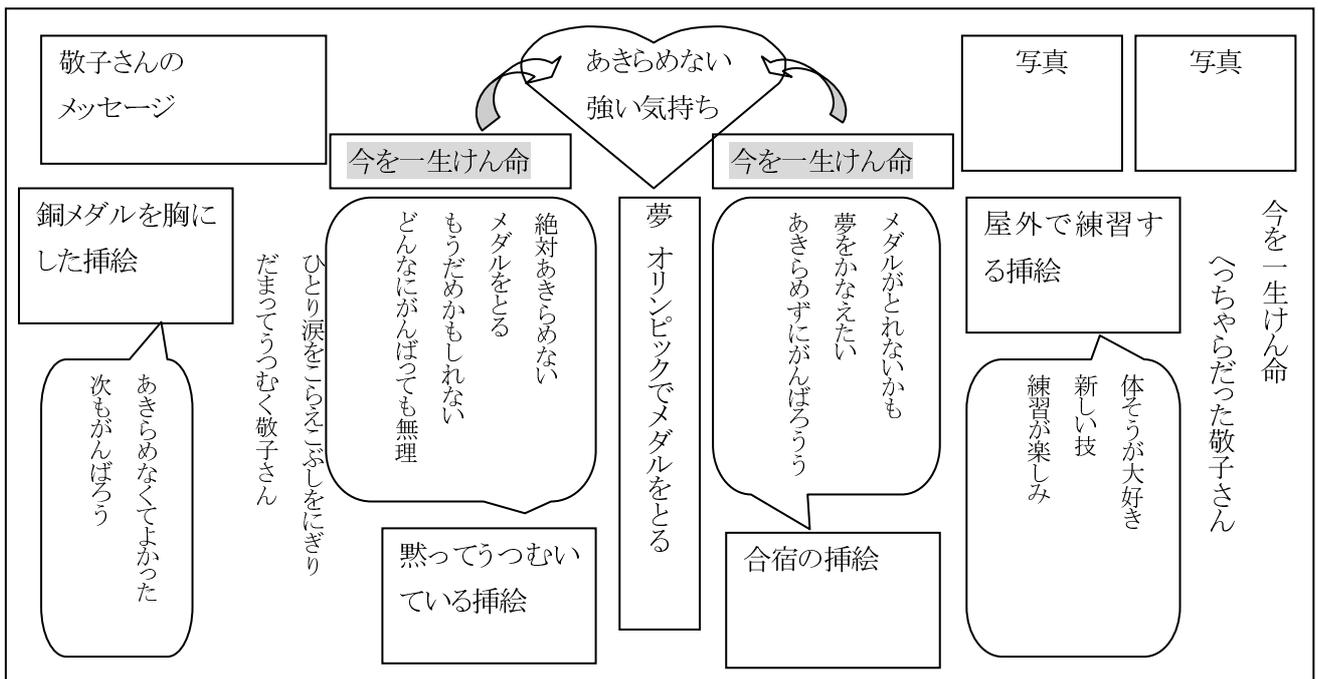
	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 (☆評価の観点)
導入	1 体操競技(平均台)のビデオを見る。	○ ビデオを見て、どんなことを思っただろう。 ・高い平均台の上でまわるのがすごい。 ・なんであんなことができるのかな。	○ ビデオを見て気が付いたことを自由に出させる。 ○ 平均台の補足説明をして高さの実感をもたせる。(高さ1m20cm)

展 開	<p>2 資料「今を一生懸命」を聞いて話し合う。</p> <p>3 敬子さんの生き方と自分を重ねて考える。</p>	<p>○ どうして敬子さんは、こんな環境もへっちゃらだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操が好きで好きでしかたなかった。 ・新しい技が出来るようになっていくのが楽しかったから。 ・いつも夢中になって取り組んでいたから。 <p>○ 厳しい合宿生活の中で敬子さんはどんなことを考えているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい練習に耐えられるだろうか。 ・どんな苦勞をしてでも夢をかなえたい。 ・必ずオリンピックでメダルをとる。そのためには一生懸命がんばる。 ・結果を気にするより、今を一生懸命やるだけ。 <p>◎ 一人涙をこらえ、こぶしをにぎりしめたまま黙ってうつむく敬子さんは、心の中でどんなことを考えているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでがんばってきたのにだめかもしれない。 ・あきらめたら、これで終わってしまう。 ・まだ希望はある。絶対にあきらめてはいけない。 ・結果を考えてどうするんだ。今、目の前の競技を一生懸命にやるだけだ。 <p>○ 表彰台にのぼってじっとメダルを見つめている敬子さん。どんな思いがあふれてきているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめずにやりとげてよかった。 ・もしメダルがとれなかったとしても、あきらめずにがんばれた自分を褒めてあげたい。 ・また次の目標に向かっていきたい。 <p>○ 敬子さんの生き方から学んだ事で、自分に活かしたい事は、どんな事だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦難にあってもあきらめないこと。 ・努力を続けること。 ・どんな時も、前向きに前進すること。 ・うまくいかないときも、乗り越える強い心をもつこと。 	<p>○ 三原市出身の体操選手の資料であることに触れる。</p> <p>○ 大好きな体操に夢中になって取り組んでいるからこそ悪条件を克服できていることをつかませる。</p> <p>○ 厳しい練習の中で折れそうになる心と夢に向かってやりとげようとする心の葛藤に迫らせる。</p> <p>○ 「どうしてここまでがんばるの。」と補助発問を行い、夢に向かって強い意志をもってやり遂げようとしていることに気付かせる。</p> <p>○ ワークシートに書かせ交流させる。</p> <p>○ 「敬子さんにあきらめない気持ちを湧き上がらせているものは何だろう。」と補助発問を行い、これまでの努力が敬子さんを支えていることに気付かせる。</p> <p>☆ 書く活動を通して、困難に出会ってもあきらめずにやりぬこうとする敬子さんの心情を自分なりにとらえ、自ら考えを深めることができたか。</p> <p>○ 達成感、充実感と同時に新たな目標に向かおうとする敬子さんの心情に共感させる。</p> <p>○ 場合によっては「もしメダルがとれていなかったら、どう思っただろう。」と補助発問を行い、強い気持ちであきらめない過程が大切であることに気付かせる。</p> <p>○ 郷土の人物の生き方から学んだことを考えることで、自分のこととしてとらえられるようにする。</p>
終末	<p>4 メッセージを聞く。</p>	<p>○ 池田敬子さんのメッセージを聞こう。</p>	<p>○ ねらいとする道徳的価値を温め、余韻をもって終わる。</p>

(才) 資料分析表

資料場面	登場人物の行為 心情	主人公の心情 (敬子と)	児童の意識の流れ
<p>○体操に出ない夢中になる。</p> <p>○厳しい合宿生活を送る。</p> <p>○オリンピック出場するが、メダルが絶望的な状況になる。</p> <p>○銅メダルを獲得する。</p>	<p>中心人物 (敬子さん)</p> <p>・敬子さんと体操の出会いが高校時代。初めてふれたそのときから、体操に夢中の毎日が始まった。中でも得意だったのは平均台。</p> <p>・敬子さんは、様々な練習を考え出した。一つ技ができるようになるまでまた新しい技に挑戦していく。明日の練習が待ち切れなかった。</p> <p>・真冬でも素手で素足で土の上での練習だった。手も足もしもやけどだらけになっていたが、そんな練習はへっちゃらだった。</p> <p>・日本でテレビ中継を見ながら(いつかきっと私たちが夢より)とソングで・・・)と何度も何度もつづやいだ。</p> <p>・初出場の世界体操選手権の平均台で金メダルに輝くなど、すばらしい成績をおさめていった。</p> <p>・二人の幼い子もろを練習にも争って合宿した。朝は五時すぎに起床し、おむつをせんとくする。</p> <p>・本時から朝練習のはじまり。みんなで暖房をりきりまで仕を流す練習が、来る日も来る日も続く。全身あせだらけ。</p> <p>・体は疲れ果てていながら、なかなか寝付けないう夜もあった。(本当にメダルがとれるのかなあ・・・) (練習を休まないで、今を一生懸命やるだけ)と、自分自身に言い聞かせた。</p> <p>・ひとり涙をこらえ、ごしをにぎりしめたまま、黙ってうつむく敬子さん・・・</p> <p>・大きく息を吸い込み、ぐつと鼻をあげた。「メダルはとれる。いいや。とる。」</p> <p>・ゆつくりと平均台の前にはだ。大きく一歩を踏み出す。グッとシムシムなジャンプとターン。そしてフィニッシュは、この日のために準備してきた本技「片足前方宙返り」。アトにすいまれるように着地がまよった。</p> <p>・練習は女子体操団体三位、オリンピック初のメダル獲得。五人のチームメイトとともに表彰台の上で立つ。</p> <p>・大観衆の歓声と拍手が響く中、敬子さんはあふれてくる思いを胸にしごとメダルを見つめた。</p> <p>・引退後も熱心に体操競技発展のために熱心な力をつくし続けている。</p> <p>・今も後輩の育成に一生懸命の毎日だ。</p> <p>その他の人物 (スバル)</p> <p>・メダルという大きなプレゼントの中、言い合いのけんかになる。いもあすらしはなかった。</p> <p>・小さなミスが量なると祭りのひな</p> <p>・「もうダメだ。後半どんなにかんばつても追いつけない・・・。」</p> <p>・「あなたに期待されていたのに・・・。」</p> <p>・メンバー全員の前から、絶望の涙が流れた。</p>	<p>主人公の心情 (敬子と)</p> <p>体操に夢中の毎日</p> <p>・いろいろな方法で練習してみよう。</p> <p>・新しい技ができるようになる</p> <p>・楽しいな。</p> <p>・早く練習したいな。</p> <p>・体操が大好き。</p> <p>厳しい合宿生活</p> <p>・子どもの世話をしながらの練習は大変だ。</p> <p>・本当にメダルがとれるのかなあ。</p> <p>・けんかをしている場合もやない。</p> <p>・メダルをとるためにがんばろう。</p> <p>・今を一生懸命にやろう。</p> <p>黙ってうつむく</p> <p>・もうメダルはためかもしれない。</p> <p>・こんなに頑張ってきたのに。</p> <p>・ここであきらめるわけにはいかない。</p> <p>・絶対にメダルをとる。</p> <p>・自分を信じてやろう。</p> <p>・こんなに努力してきたんだ。やり抜こう。</p> <p>メダルを見つめる</p> <p>・やつだ。念願のメダルがとれた。</p> <p>・努力が報われた。</p> <p>・みんなを頑張ってきたよかったです。</p> <p>・あきらめなくてよかった。次ががんばろう。</p>	<p>児童の意識の流れ</p> <p>○平均台は恐くないのかな。</p> <p>○どうしてあんな練習方法を思いつづのかな。</p> <p>○よほど練習が好きなんだな。</p> <p>○素手や素足の練習は痛いだろな。</p> <p>○冬に外で練習するのは、寒くていやにならなかったのかな。</p> <p>○寒さや汗さもへつちきらなくらい、体操が好きなんだな。</p> <p>○赤ちゃんの世話をしていたなんてすごい。</p> <p>○お母さんになつてもやれるんだな。</p> <p>○家族の応援があつたのかな。</p> <p>○年間もよく合宿できたな。</p> <p>○毎日、毎日練習ばかりだといやにならないのかな。</p> <p>○やつぱり悔みもあつたんだ。</p> <p>○メダルをとるといふ夢を絶対かなえたいと思っているんだな。</p> <p>○夢があるから頑張れたんだな。</p> <p>○もう、あきらめるのかな。</p> <p>○今まで頑張ってきたのに、かわいそう。</p> <p>○敬子さんは、どうするのかな。</p> <p>○まだ結果はわからない。</p> <p>○今まで努力してきたから、やつぱりあきらめるわけにはいかないよ。</p> <p>○最後まで全力で頑張ったんだね。</p> <p>○絶望的な状況でもあきらめない強い気持ちがあつたんだね。</p> <p>○銅メダルがとれてよかったね。</p> <p>○やつぱりあきらめなくてよかった。</p> <p>○あきらめない気持ちが夢をかなえたんだな。</p> <p>○おはあちゃんになつても、まだ一生懸命やつてるなんてすごいな。</p> <p>○次の夢は何なのかな。</p>

(カ) 板書例



【板書の構成】

【板書の構成】

敬子さんが平均台の演技をしている実際の写真や、場面絵を使い、視覚的にもわかりやすく構成していく。

具体的には、『いつかメダルを』という敬子さんの夢を黒板の真ん中に大きく据える。その両側に、2回の葛藤場面での心情を書いていく。その中で、「夢に向かってがんばりたい」「あきらめない」等の意見を矢印で『いつかメダルを』に向け、書き込んでいく。

また、『今を一生懸命』というキーワードを短冊で提示し、夢に向かう過程の敬子さんの生き方を印象付けられるようにする。

さらに、最後の発問で「次の目標に向かってまたがんばりたい」という意見が出た時には、『次の夢』と書き、敬子さんの生き方にも触れられるように工夫したい。

題名である『今を一生けん命』は、最後に提示するほうが望ましい。

(2) 活用のポイント

本資料は、夢を追い求める中で何度も葛藤をしながら、あきらめずに前向きに努力する池田敬子さんの人間的な弱さと強さが表れる内容とした。それは、高学年の心のノート「目標に向かう道にはいろいろなことがある」とも重なる。そこを踏まえた上で、展開を工夫したいと考えた。

ア 発問の工夫

ねらいとする道徳的価値に迫らせるためには、2回の葛藤場面をしっかりと考えさせることが大切である。そこで、二つ目の基本発問と中心発問の2回を葛藤場面として設定した。誰しも目標を達成するまでの過程で、何度も挫折を経験する。その度に葛藤しながらあきらめずに努力し続けることによって夢がかなうことにつながるのである。

具体的には、厳しい合宿生活の場面では、オリンピックでメダルをとるという夢に向かう強い意志と、プレッシャーに襲われ弱音を吐く人間的な弱さと葛藤を考えさせたい。そこで、「どうしてここまでがんばるの?」と補助発問を行い、厳しい中で努力し続けることができるのは、自分の夢をかなえたいという強い気持ちがあることに気付かせる。あきらめないという心情だけが出た場合には、「どうして、眠れない夜があったの?」と切り返し、夢に向かいひたすら努力を続ける敬子さんの中にも、不安や弱音があることを感じさせ、児童に共感させる工夫も必要である。

また、オリンピックで絶望的な状況になった場面では、「一人涙をこらえ、こぶしをにぎりしめたまま黙ってうつむく敬さんは、心の中でどんなことを考えているだろう。」と問い、ワークシートに多様な考えを書かせた後、意見交流をして深めていきたい。「あきらめたくない。」という意見が出た時には、「敬さんにあきらめない気持ちを湧き上がらせているものは、何だろう。」と補助発問を行い、ここまでやってきたことや努力、合宿生活の中での挫折感を克服してきた強さが、敬子さん自身を支えていることに気付かせる。

「あきらめずにがんばろう。」という意見に偏った場合には、「がんばっても、メダルがとれないかもしれないよ。」と切り返し、最後まであきらめずに自分を信じ努力する気持ちが大切である

ということや、メダルよりも、それに向かっていることががんばった過程に意味があることをつかませたい。

イ 書く活動の工夫

中心場面では、ワークシートを使い、自分の考えをじっくりと考えさせたい。絶望的な状況になりながらも、「今を一生懸命やるだけ。」と、最後まであきらめない心情と、そういう思いをわきあがらせるものは何かということとともに、敬子さん自身の生き方を、中心場面までをふり返らせながら考えさせたい。この時しっかりと考えさせておくことで、指導展開例の学習活動の展開後段「3 敬子さんの生き方と自分を重ねて考える」場面で、再度ワークシートに書く時、敬子さんの生き方から自分自身が学び、これからの自分に活かしたいことを考えることができるものと思われる。自分の生活を振り返る場面では、ねらいとする道徳的価値とずれが生じることがある。そこで、中心場面で主人公に共感しじっくり考えたこととリンクさせ考えることができるワークシートとした。

ウ 視覚的につかませる工夫

児童には、体操競技についての知識が少ないと予想される。そこで導入では、大会で体操競技の中の平均台の演技をしている様子を映像で提示する。また、実際の長さや高さ、幅で作ったテープを提示し、特に120cmという高さを示して、資料の中で「つねに落下の恐怖がつきまとう種目だ」というイメージや、幅10cmの上での演技の難しさをつかませ、興味をもたせて資料に引き込みたい。

また、池田敬子さんが、水泳の金メダリスト「北島康介」選手と一緒に写っている写真を提示し、「この人を知っていますか?」と問うことで、児童から「北島康介選手」と引き出した上で、「この隣にいる人が、今日のお話の主人公、三原市出身の池田敬子さんです。」と、紹介する。児童は、よく知っている北島康介選手が慕う人物ということで、身近に感じ、関心をもつと思われる。

エ キーワードを生かす工夫

題名にもあるように「今を一生懸命」がキーワードとなっている。夢を叶えるまでの過程で挫折しそうになりながらも、あきらめずに努力する姿

を「今を一生懸命」という言葉で象徴し、資料の文章の中にも敬子さんの言葉として登場させている。2度の葛藤場面ごとに児童の意見を整理したあと、「今を一生懸命」という短冊を貼りまとめてくことで、その時々一生懸命がんばってきたこと、そしてそれが夢につながったこと、70歳を過ぎてでもまだ夢に向かって進んでいる敬子さんの生き方を感じ取らせたい。

(3) 授業の実際—児童生徒の反応を踏まえて—

ア 発問の工夫

2回の葛藤場面では、「こんなにがんばっても、もしメダルがとれなかったらどうしよう。」「がんばれば夢はかなう。でもあきらめたらかなわない。だからあきらめずにがんばろう。」などの意見が出てきて、夢に向かう強さの裏には弱さがあることを感じ、敬子さんの人間的な両面を考えることができた。

そして、「生活のふり返し」では、「敬子さんががんばれたように、私もがんばれるかもしれない。自分の夢に向かって、ずっと努力を続けていきたい。」「やっぱり、あきらめないということは大切だと思った。だって、あきらめたら、そこからは何も続かないけど、あきらめなかったら、どんなことが起こるかわからない。敬子さんもあきらめなかったから、メダルがとれた。ぼくも、そういう考え方をしていきたい。」など、敬子さんの生き方と自分自身をつなげて考えることができた。

イ 書く活動の工夫

中心場面でのワークシートでは、「ここまでがんばってきたのに、もうだめかもしれない。でも、やっぱりあきらめたくない。だめでも最後までしっかりやりとげたい。」「まだ終わったわけじゃない。ここであきらめなかったら、メダルがとれるかもしれない。」「絶対あきらめないぞ。今までがんばってきたのだから、自分を信じてがんばる。」など、しっかりと考えて書くことができた。また、展開後段の「3 敬子さんの生き方と自分を重ねて考える」場面では(ア 発問の工夫 の反応例参照) 敬子さんの生き方から学んだことを考えて書くことができた。

ウ 視覚的につかませる工夫

導入の平均台の演技の映像では、「すごい！」

「なんであんなことができるん？」と、とても興味をもった。児童に馴染みのない体操競技の内容であるので、映像を見て把握できたことはとても効果的であった。

また、当時の写真や北島康介選手との写真も効果的であった。知らない池田敬子さんの写真だけよりも興味をもつことができたようである。

学級には、体操教室に通っており、大会で実際に池田敬子先生に出会ったことがあるという児童がいたことや、海水浴やスポーツ少年団等の合宿で佐木島に行ったことがある児童も数人おり、「知ってる。」とさらに興味をもち資料に入ることができた。

エ キーワードを生かす工夫

意見を交流したあと、板書に提示することでキーワードに込められた敬子さんの生き方を印象付けることができた。児童からは「敬子さんの口癖みたい。そんなふうに自分を励ましてがんばっていたと思う。」などの反応も見られた。

(4) 各教科等(体験活動を含む)との関連

体育で、学校用の平均台で体験しておくとうよい。ただし、低いので歩いたり少し走ったりするくらいのは、そう難しくない。教科の目標や安全面を踏まえた上で、いくつかの技を体験することができたら、より、難しさが実感できると考える。

また、日記や作文等で、自分の夢に向かってがんばっているものなどを集めておくと、「生活のふり返し」で、簡単に紹介できる。

(5) 心のノートを活用

道徳の時間の終末において、「心のノート」PP. 18-19の「わたしの夢」を活用し、自分の夢を記入したり、「あきらめの谷」「ふんばりの滝」などの言葉と合わせて自分自身の過程をふり返らせたりすることができる。

学級活動において、「心のノート」PP. 16-17を活用し、イチロー選手が夢を叶える過程を知り、自分の夢を考えていくこともできる。

国語科「マザー・テレサ」の学習のまとめとして行う生き方を学びたい人の伝記を読み、本のカバーを作る学習において、「心のノート」PP. 18-19「わたしが学びたい人物」の欄を活用する。